

【国土交通大臣賞】

産学官民連携による地域と市民が主役のまちづくり

～日向市駅を核とした地域の宝を活かしたまちづくりの取組～

- 実施主体：日向市、宮崎県、九州旅客鉄道株式会社、日向市中心市街地活性化協議会、日向市中心市街地イベント連絡協議会
- 場所：宮崎県日向市

■背景・経過：

当地区は宮崎県日向市にある JR 日豊本線の日向市駅を核とする中心市街地（50.6ha）であり、郊外化の進展等により、定住人口の減少、空き店舗の増加など、中心市街地は衰退の一途を辿っていた。このような中で、街なかの賑わいを創出し、持続可能なコンパクトシティを形成するため、宮崎県や日向市、JR九州、地元住民等が連携して、土地区画整理事業、連続立体交差事業、交流拠点施設整備、商業集積整備の4事業に取り組むとともに、「まちは舞台、人が主役」をコンセプトに、市民を巻き込んだ様々な活動に取り組んでいる。

■取組内容：

連続立体交差事業により高架化された駅舎には、地元産の杉材を活用し、木を活かしたまちづくりを体現するとともに、橋脚の間隔を広げることで多目的空間を確保している。駅西側には広場と野外ステージを整備し、週末には様々なイベントが開催されるなど、駅と一体となって、市民に活用される質の高い公共空間が創出されている。駅周辺では、土地区画整理事業により、幹線街路等を整備するとともに、換地手法を活用した街区単位での土地の集約化や来訪者の利便性向上のための路地創出、駐車場の確保などの商業集積が図られている。

整備に当たっては、有識者等による都市デザイン会議を設置し、継続的・統一的なデザインを実現するとともに、様々な協議会での議論を通じて、利用者の意見を反映した。また、まちづくりを教育の現場へと広げ、小・中・高校を対象とした「まちづくり課外授業」を実施し、将来の担い手を育てるところにまで踏み込んでいる。

■講評

- ・市民が誇りに思える街づくりを志しており、駅を中心とした公共空間の魅力と、子どもや若者を含んだ市民がより当事者意識をもって参画できる取組が共に実現できている。
- ・連続立体交差事業を契機として、市民を巻き込んだ様々な取組が展開されており、地方都市における、プロジェクトを核とした住民参加のまちづくりの好事例である。



駅と広場の整備を中心として、コンパクトなまちづくりが行われている。



地元杉材をふんだんに用いた野外ステージと日向市駅の夜景



市民の憩いの場となった交流広場



駅前で高校生を対象としたまちづくり課外授業を実施。学生が故郷のまちづくりを肌で感じる場となった。